

結 果 の 概 要

1. 栄養素等の摂取状況

(1) はじめに

栄養価の算定等に利用される「日本食品標準成分表」について、昭和57年10月26日科学技術庁資源調査会報告第87号をもって「四訂日本食品標準成分表（以下「四訂成分表」という。）」が公表されたことに伴い、本調査の栄養素等摂取量については、この新しい四訂成分表によって集計が行われた。

なお、昭和57年の全国平均1人1日当たり栄養素等摂取量を新しい四訂成分表を用いて算定したものと、従来の三訂成分表を用いて算定したものとを比較してみると、エネルギーでは2,101 kcal（三訂成分表）に比べ2,136 kcal（四訂成分表）と1.7%高い値を示し、同様に脂肪は5.6%、ビタミンAは20.3%、ビタミンB₁は16.9%、ビタミンB₂は18.9%、ビタミンCは15.1%それぞれ高い値を示したが、鉄については19.4%低い値を示した。

以下に示す調査成績における昭和50年以降の数値は、四訂成分表を用いて算定したものである。

(2) 栄養素等の摂取状況

昭和57年の調査における国民の全国平均1人1日当たり栄養素等摂取量は表1のとおりである。

表1 栄養素等摂取量の年次推移

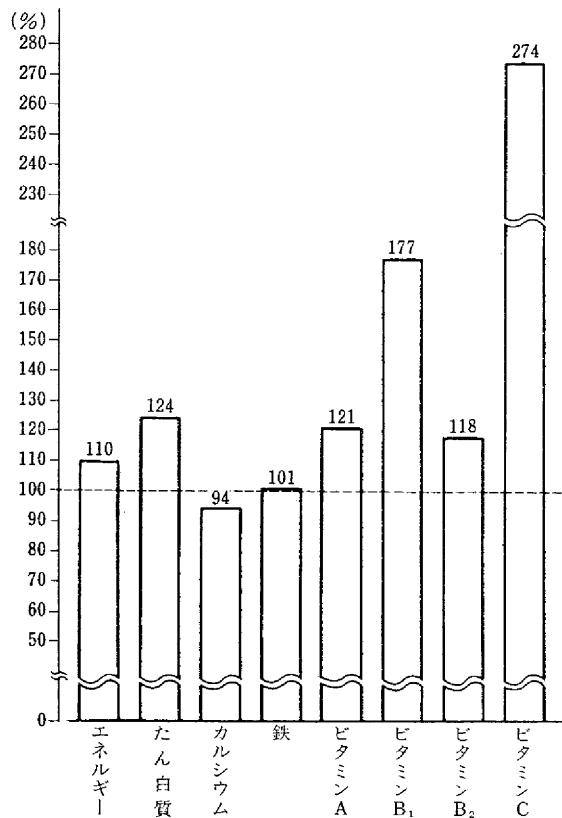
	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和56年	昭和57年
エ ネ ル ギ ー kcal	2,184	2,210	2,226	2,119	2,137	2,136
た ん 白 質 g	71.3	77.6	81.0	78.7	79.7	79.6
う ち 動 物 性 g	28.5	34.2	38.9	39.2	40.2	40.0
脂 肪 g	36.0	46.5	55.2	55.6	57.7	58.0
う ち 動 物 性 g	14.3	20.9	26.2	26.9	28.0	28.2
炭 水 化 物 g	384	368	335	309	307	306
カ ル シ ウ ム mg	465	536	552	539	552	559
鉄 mg	—	—	10.8	10.4	10.7	10.8
ビ タ ミ ン A IU	1,324	1,536	1,889	1,986	2,113	2,120
ビ タ ミ ン B ₁ mg	0.97	1.13	1.39	1.37	1.37	1.38
ビ タ ミ ン B ₂ mg	0.83	1.00	1.23	1.21	1.24	1.26
ビ タ ミ ン C mg	78	96	138	123	132	132

前年と比べて各栄養素とも特に目立つほどの増減はみられず、ほぼ横ばいの結果が示されている。

また、全国平均1人1日当たり栄養素等摂取量を調査対象の平均栄養所要量と比較すると図1のとおり、カルシウムを除いてはいずれも所要量を上回っている。

なお、日本人の栄養状態については、過去にビタミンの一部が所要量を若干下回っていたが、57年の調査成績を含めて最近数年間における動向をみた場合、全国平均でみるかぎりビタミン類の摂取量は所

図 1 栄養素等摂取量と調査対象の平均栄養所要量との比較
(調査対象の平均栄養所要量=100)



要量を充足している。

——エネルギーのとりすぎには要注意——

上述のとおり国民の栄養状態は、全国平均ではおおむね良好であるというものの、個別的にはいくつかの問題を残している。

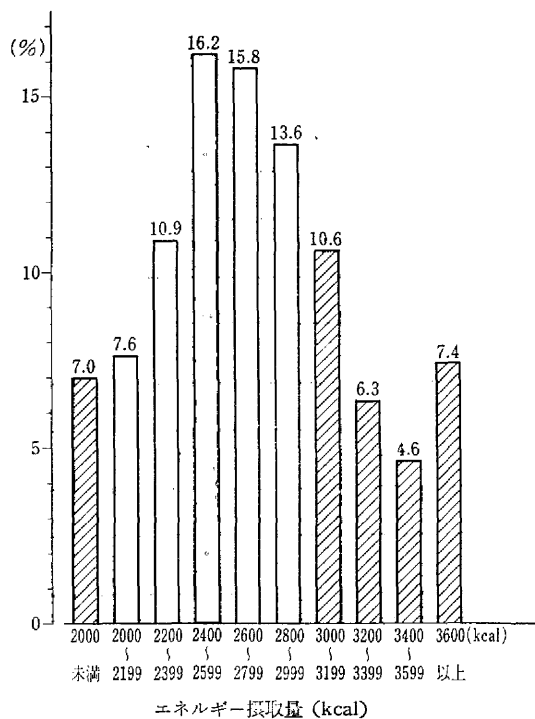
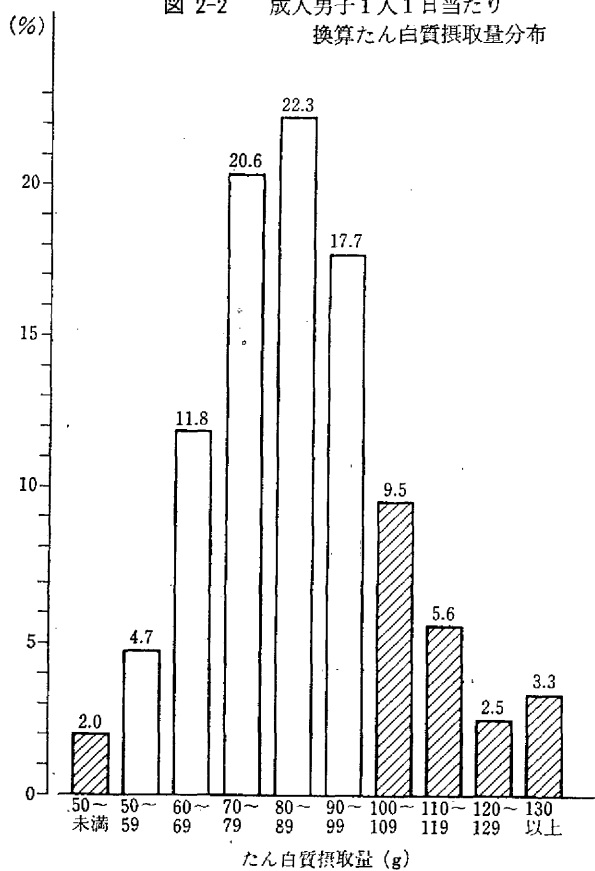
たとえば、エネルギーは全国平均で所要量を10%上回って摂取しており、また、個々の世帯別にエネルギー摂取量を成人男子1人1日当たり摂取量に換算してみた場合には図2-1のとおり、所要量を20%以上上回って摂取している者が約30%いる一方で、20%以上下回って摂取する者が7%いるなど格差が目立つところである。

また、たん白質摂取量についても成人男子1人1日当たり摂取量に換算してみた場合には図2-2で示すとおり格差が目立つところである。

次にエネルギー摂取量に占める栄養素別構成比率についてみると図2-3に示すとおりである。エネルギー摂取量に占める脂肪エネルギーの比率はいぜんとして増加傾向にあり、57年には24.4%を占めるまでになっている。日本人の栄養所要量では、一般成人の脂肪エネルギー比率は20~25%が適当とされているので、現在のところは一応適正な範囲にとどまっているといえる。

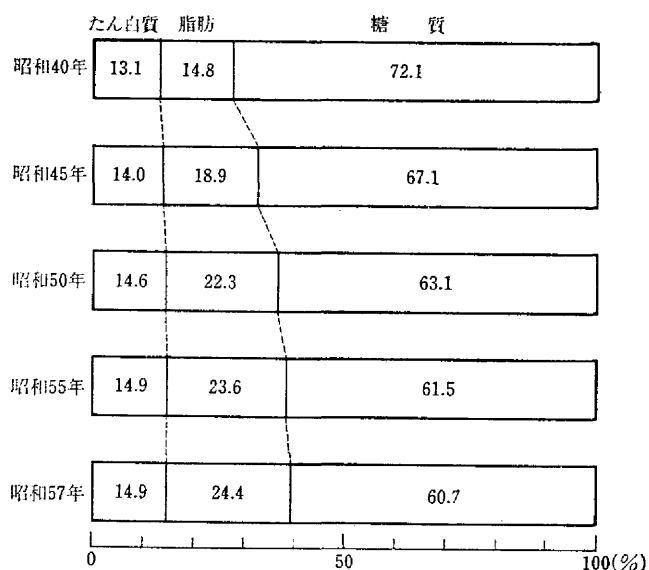
しかし、今後ともエネルギーのとりすぎや、脂肪の摂取量の増加傾向がつづくことは、成人病予防な

図 2-1 成人男子 1 人 1 日当たり換算エネルギー摂取量の分布

図 2-2 成人男子 1 人 1 日当たり
換算たん白質摂取量分布

ど健康上の観点から好ましいことではなく、今から注意をはらっていく必要がある。

図 2-3 エネルギーの栄養素別摂取構成比(%)



2. 食品の摂取状況

昭和57年の調査における国民の全国平均1人1日当たりの食品の摂取状況は表2のとおりである。

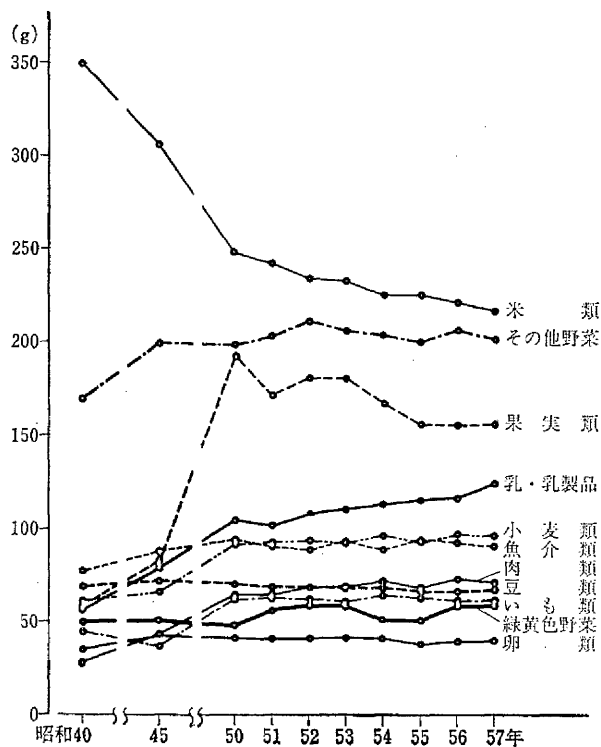
前年に比べて各食品群とも目立つほどの増減はみられないが年次推移をみた場合には、図3のとおり米の摂取量がいぜん減少傾向を示しているのに対し、乳・乳製品のみが増加傾向を示している。

表 2 主要食品群別摂取量の年次推移 (全国平均1人1日当たり)

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和56年	昭和57年
穀 類 { 米 類	349.8 g	306.1 g	248.3 g	225.8 g	221.8 g	218.2 g
い も 類 { 小 麦 類	60.4	64.8	90.2	91.8	96.5	95.9
油 脂 類	41.9	37.8	60.9	63.4	61.1	61.0
豆 類	10.2	15.6	15.8	16.9	18.1	18.3
緑 黄 色 野 菜	69.6	71.2	70.0	65.4	66.2	67.2
そ の 他 野 菜	49.0	50.2	48.2	51.0	58.3	58.7
果 実 類	170.4	199.1	198.5	200.4	203.5	201.1
海 草 類	58.8	81.0	193.5	155.2	154.6	159.7
調 味 嗜 好 飲 料	6.1	6.9	4.9	5.1	4.7	5.0
魚 介 類	87.8	126.7	119.7	109.4	108.7	114.6
肉 類	76.3	87.4	94.0	92.5	92.0	90.2
卵 類	29.5	42.5	64.2	67.9	72.4	70.8
乳 ・ 乳 製 品	35.2	41.2	41.5	37.7	39.5	40.0
	57.4	78.8	103.6	115.2	116.4	124.2

また、動物性食品のうち、昭和40年代の10年間に約2.2倍と大幅な増加をみた肉類の摂取量は、昭和50年以降その伸びが鈍化し、57年の摂取量は50年に比べて約10.3%の増加にとどまり、さらに最近数年間はほとんど停滞を示すなど、ほぼ頭打ちの傾向がみられる。

図3 主要食品群別摂取量の年次推移（1人1日当たり）



3. 世帯業態別にみた食生活

(1) 栄養素等の摂取状況

昭和57年調査における世帯業態別の栄養素等摂取量は表3のとおりである。

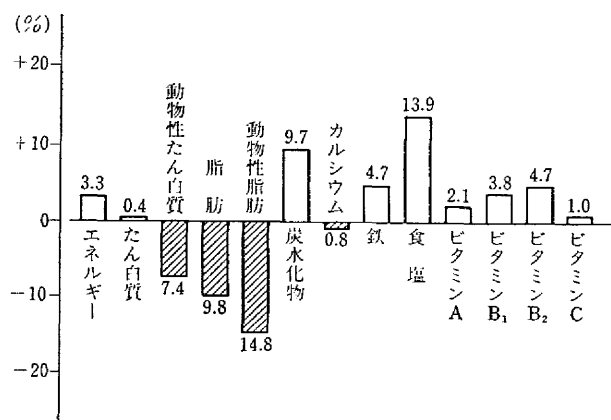
栄養素の摂取状況を農家世帯と非農家世帯の別に比較してみると、図4のとおり非農家世帯は農家世帯に比べて、動物性たん白質、脂肪及びカルシウムの摂取量が上回っているもののエネルギー、炭水化物、鉄及びビタミン類の摂取量は下回っている結果が示されている。

表3 栄養素等摂取量(全国、世帯業態別)

(1人1日当たり)

	全 国	農 家 世 帯			非 農 家 世 帯				
		平 均	専業世帯	その他の世帯	平 均	自営業者世帯	常用勤労者世帯	日雇労働者世帯	その他の世帯
調 査 世 帯 数	6,044	661	146	515	5,373	1,013	3,681	58	621
エ ネ ル ギ ー kcal	2,136	2,196	2,256	2,181	2,126	2,131	2,137	2,189	2,009
た ん 白 質 g	79.6	79.9	80.9	79.7	79.6	80.5	79.7	84.4	74.8
うち動物性 g	40.0	37.4	36.8	37.5	40.4	41.2	40.6	41.4	35.9
脂 肪 g	58.0	53.1	53.1	53.1	58.9	57.7	60.0	57.0	52.4
うち動物性 g	27.8	24.2	23.5	24.4	28.4	28.4	28.8	27.2	24.8
炭 化 水 物 g	306	331	344	328	302	304	302	314	293
カ ル シ ウ ム mg	559	555	564	553	560	551	564	545	545
鉄 mg	10.8	11.2	11.4	11.1	10.7	10.7	10.7	11.7	10.4
ナトリウム(食塩換算) g	12.4	13.9	14.8	13.7	12.2	12.2	12.1	13.9	12.5
ビ タ ミ ン A IU	2,120	2,058	2,120	2,043	2,131	2,027	2,174	2,097	2,027
B ₁ mg	1.38	1.35	1.37	1.35	1.38	1.42	1.38	1.43	1.29
B ₂ mg	1.26	1.24	1.26	1.24	1.26	1.25	1.27	1.26	1.19
C mg	132	145	150	143	130	129	130	124	135
穀類エネルギー比 %	47.1	50.3	50.5	50.2	46.5	47.1	46.2	48.9	46.8
動物性たん白質比 %	50.2	46.8	45.5	47.1	50.8	51.2	50.9	49.1	48.0

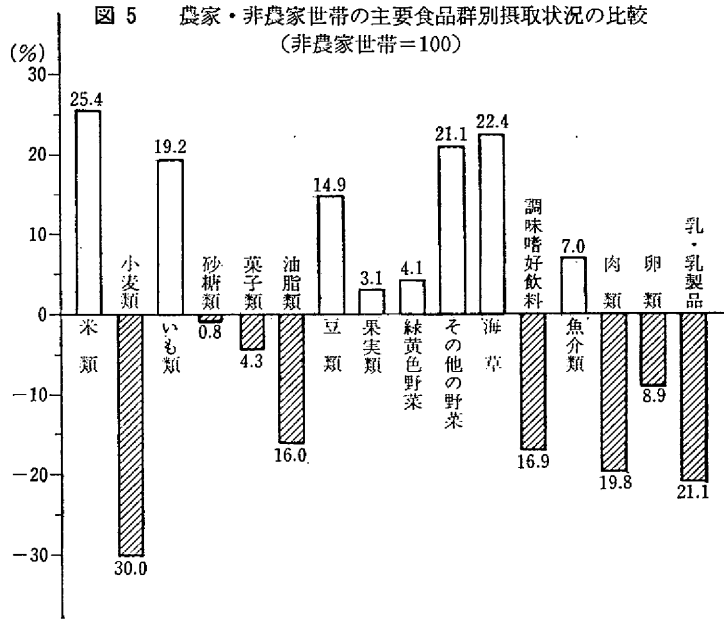
図4 農家・非農家世帯の栄養素等摂取状況比較
(非農家世帯=100)



(2) 食品の摂取状況

主要食品の摂取量を農家世帯と非農家世帯の別に比較してみると図5のとおりである。

農家世帯は非農家世帯に比べて米類、いも類、豆類、その他の野菜、海草及び魚介類などの摂取量は多いが、小麦類、油脂類、調味嗜好飲料、肉類、卵類及び乳・乳製品などの摂取量は下回っている。

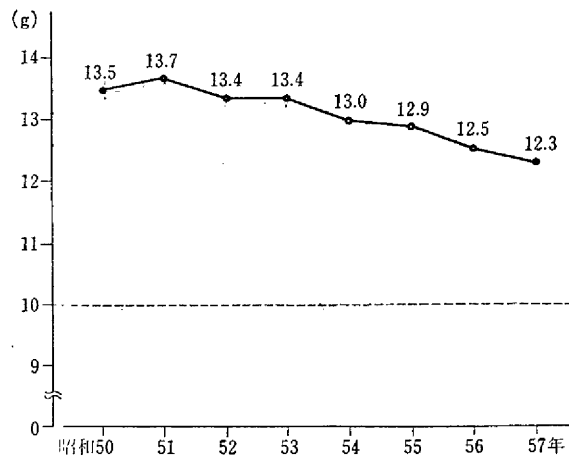


4. 食塩の摂取状況

(1) 全国平均1人1日当たり摂取量

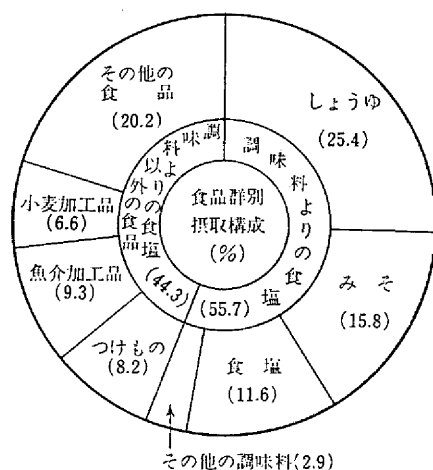
昭和57年調査における国民の全国平均1人1日当たり食塩摂取量は12.3gである。食塩摂取量の年次推移をみると図6のとおり、ゆるやかながら減少傾向を示しているが「日本人の栄養所要量」(昭和54年公衆衛生審議会答申)で示されている1日10g以下という適正摂取目標量に比べた場合にはまだとりすぎている。

図 6 1人1日当たり食塩摂取量の年次推移(全国平均)



また、食塩の食品群別摂取構成をみると図7のとおり、調味料から摂取する食塩は55.7%で、その内訳はしょうゆが25.4%、みそが15.8%、食塩が11.6%などとなっている。一方、調味料以外の食品からの食塩は44.3%で、魚介加工品が9.3%、つけものが8.2%、小麦加工品が6.6%などとなっている。

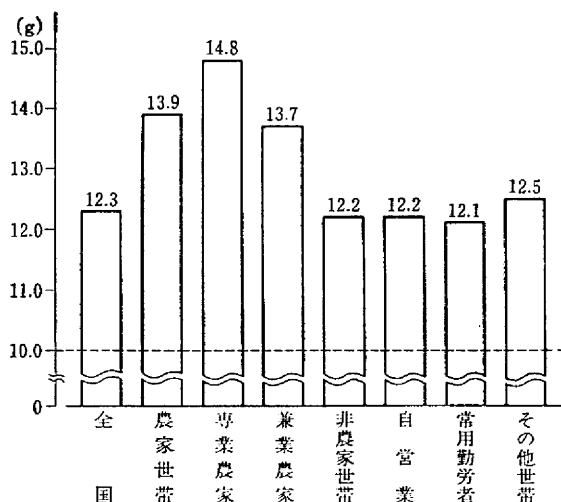
図 7 食塩の食品群別摂取構成



(2) 世帯業態別の摂取量

世帯業態別に食塩の摂取量を比較したものが図8-1である。

図 8-1 世帯業態別の食塩摂取量（1人1日当たり）

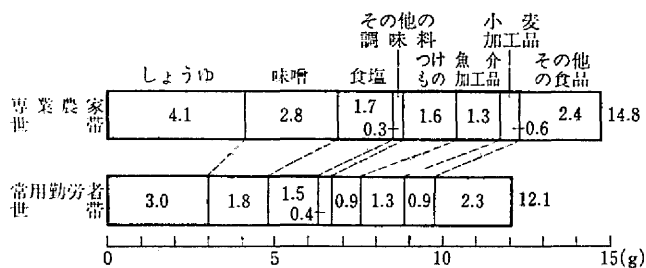


農家世帯と非農家世帯との比較では、農家世帯が13.9gであるのに対して非農家世帯は12.2gとなっている。

また、世帯業態を細分してみると、専業農家世帯が14.8gでもっとも高く、最低は常用勤労者世帯の12.1gであり、両業態間には2.7gの差がある。

なお、専業農家世帯及び常用勤労者世帯における食塩の食品群別摂取量を比較したものが図8-2である。

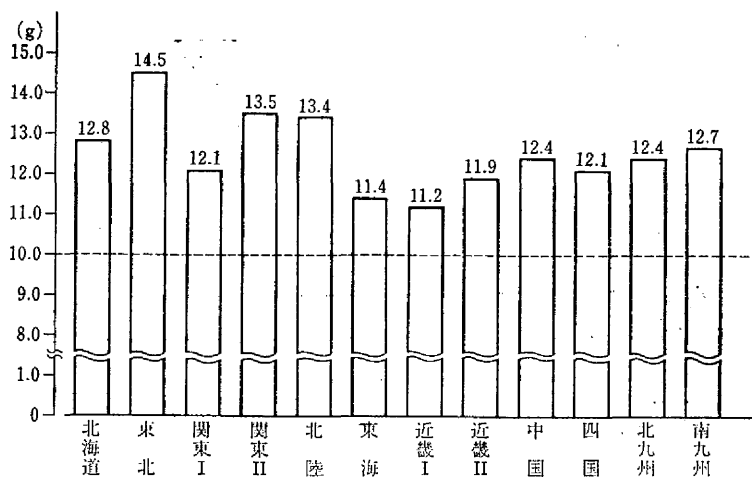
図 8-2 食塩の食品群別摂取量



(3) 地域ブロック別の摂取量

地域ブロック別に食塩の摂取量をみると図9のとおり、東高、西低のパターンが示されている。

図 9 地域ブロック別の食塩摂取量(1人1日当たり)



(参 考)

ブ ロ ッ ク			都 道 府 県 名
北	海	道	北海道
北	東	北	青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
関	東	I	埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県
関	東	II	茨城県, 栃木県, 群馬県, 山梨県, 長野県
北	東	陸	新潟県, 富山県, 石川県, 福井県
北	東	海	岐阜県, 愛知県, 三重県, 静岡県
近	畿	I	京都府, 大阪府, 兵庫県
近	畿	II	奈良県, 和歌山県, 滋賀県
中		国	鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
四		国	徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
北	九	州	福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県
南	九	州	熊本県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

5. 食生活状況調査（子どもの食生活状況）

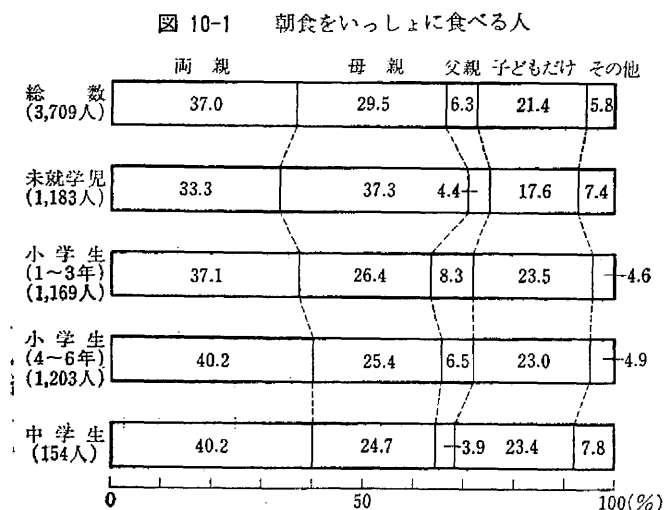
昭和57年の調査の実施にあたって被調査世帯のうち、3歳から12歳までの子ども（3,722名）のいる世帯（2,324世帯）を対象として、子供の食生活の状況等について質問調査を行ったが、その調査結果の概要は次のとおりである。

（1）食事をだれといっしょに食べるか

——朝食を両親といっしょに食べているのは37%である——

ふだん、子どもが「朝食をだれといっしょに食べるか」という問いに対する回答は図10-1のとおり「両親といっしょに食べる」が全体の37.0%で、次いで「母親といっしょに」が29.5%、「子どもだけで食べる」が21.4%となっている。

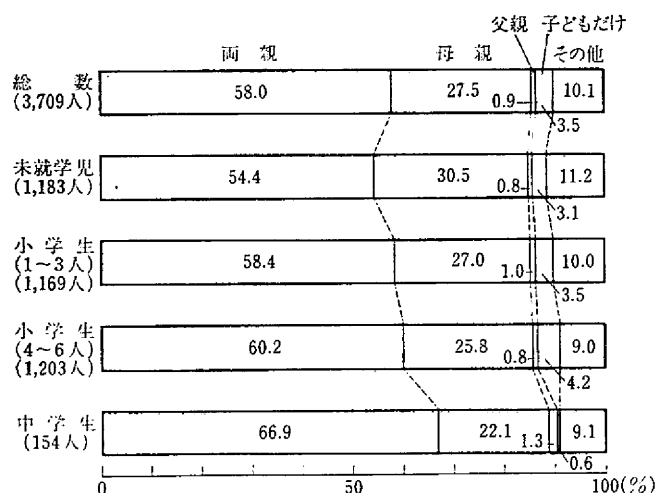
また、年齢階層別にみると高学年では「両親といっしょに食べる」子どもが多く、未就学児では「母親といっしょに」が多い。



——夕食を両親といっしょに食べているのは58%である——

次に、「夕食をだれといっしょに食べるか」という問いに対する回答は図10-2のとおり、「両親といっしょに食べる」が58.0%、「母親といっしょに」が27.5%、「子どもだけで食べる」が3.5%となっている。

図 10-2 夕食をいっしょに食べる人



——子どもだけの食事では、食欲も栄養バランスも劣っている——

子どもが朝食をだれといっしょに食べるかということと、食欲との関係についてみたところ図11-1のとおり「両親といっしょに食べる」と答えた子どもに比べて、「子どもだけで食べる」と答えた子どもの方が食欲は多少劣るという結果が示されている。

また、食品を6群に分けて各群それぞれ1点とし、各群からもなく食べた場合を6点満点として得点を比較してみると、図11-2のとおり「子どもだけで食べる」と答えた子どもは、「両親といっしょに食べる」と答えた子どもに比べて得点数が低いという結果が示されている。

図 11-1 子どもの朝食の食欲

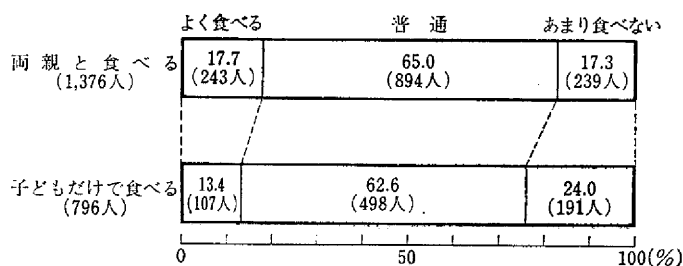
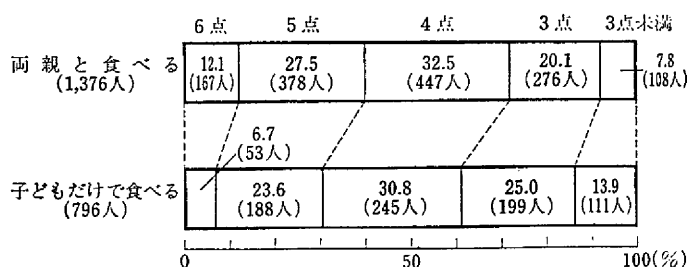


図 11-2 子どもの朝食の栄養バランス



(参 考)

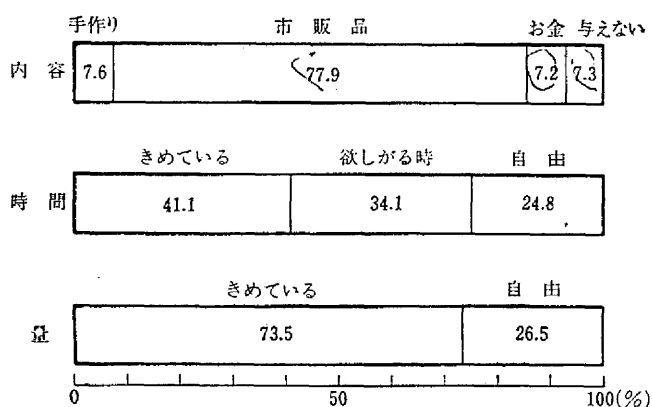
-
- | | |
|----|--------------------|
| 1群 | 魚, 肉, 卵, 大豆 |
| 2群 | 牛乳, 乳製品, 骨ごと食べられる魚 |
| 3群 | 緑黄色野菜 |
| 4群 | その他の野菜, 果物 |
| 5群 | 米, パン, めん, いも |
| 6群 | 油 脂 |
-

(2) おやつ状況

——子どものうち、4人に1人は自由におやつを食べている——

おやつの与え方等についての問いに対する回答は図12のとおり、「家庭で作ったものを与えることが多い」と回答したものは全体の7.6%であり、「市販品を与えることが多い」が77.9%, 次いで「お金で与える」が7.2%となっている。

図 12 おやつの内容, 時間, 量



また、おやつを与える時間については、「時間をきめて与える」が41.1%, 「欲しがる時に与える」が34.1%, 「子どもの自由」が24.8%となっている。

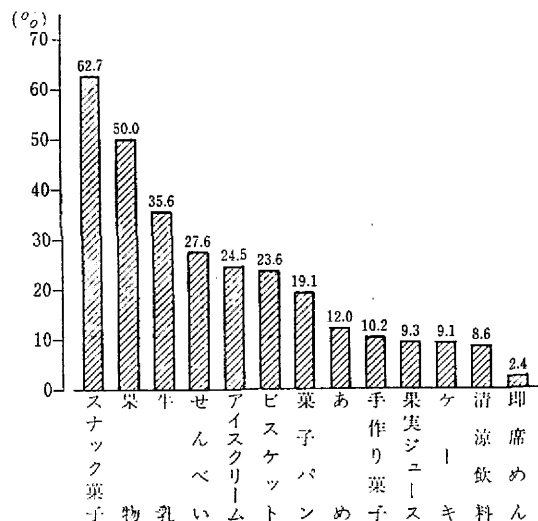
さらに、おやつの量について73.5%は「量をきめて与えている」と回答しており、「子どもの欲しがるだけ与える」が26.5%となっている。

——おやつとして与える頻度のもっとも高いものはスナック菓子である——

子どもにおやつとして与える頻度の高いものを3品あげてもらったところ図13の結果が示された。

もっとも上位を占めたのはスナック菓子類で、62.7%がベスト3にあげており、次いで果物50.0%, 牛乳35.6%の順となっている。

図 13 子どもに与えるおやつ頻度 (調査対象 3,177名)



6. 欠食の状況

3日間の調査期間中における欠食の状況は表4のとおりである。

表 4 欠食状況 (年次別)

(%)

		男				女			
		昭和51年	53年	55年	57年	昭和51年	53年	55年	57年
朝	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	88.0	87.9	88.1	88.4	89.4	90.5	90.8	91.8
	あり	12.0	12.1	11.9	11.6	10.6	9.5	9.2	8.2
	1回	5.4	5.1	5.3	5.2	4.8	4.3	4.1	3.7
	2回	2.6	2.7	2.4	2.3	2.2	2.1	1.8	1.7
	3回	4.0	4.3	4.2	4.2	3.6	3.1	3.3	2.7
昼	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	95.5	95.0	96.2	96.0	95.2	94.9	96.1	95.7
	あり	4.5	5.0	3.8	4.0	4.8	5.1	3.9	4.3
	1回	2.9	2.9	2.5	2.6	3.1	3.4	2.9	3.1
	2回	0.9	0.9	0.7	0.8	1.0	0.9	0.6	0.8
	3回	0.7	1.2	0.5	0.6	0.7	0.8	0.5	0.4
夕	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	97.5	96.7	97.9	97.4	98.4	98.0	98.4	98.5
	あり	2.5	3.3	2.1	2.6	1.6	2.0	1.6	1.5
	1回	1.9	2.0	1.6	2.1	1.2	1.4	1.2	1.2
	2回	0.4	0.6	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.2
	3回	0.2	0.8	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1

昭和57年調査において1回以上欠食をした者の割合は、朝食では男11.6%、女8.2%、昼食では男4.0%、女4.3%、また、夕食では男2.6%、女1.5%である。

なお、年次推移をみた場合、男についてはここ数年間大きな変化はみられないが、女については朝食の欠食者の割合がわずかながら低くなっている。

また、欠食割合の多い朝食について、性・年齢階級別に内容をみたものが表5である。男女ともに

20歳代の欠食率がもっとも高いという結果が示されている。

表 5 朝食の欠食状況 (性、年齢階級別)

(%)

		15～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総	数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
3日間 の欠食回数	なし	85.7	87.0	70.3	82.6	80.8	89.6	88.6	92.0	92.2	94.3	95.6	94.6
	あり	14.3	13.0	29.7	17.4	19.2	10.4	11.4	8.0	7.8	5.7	4.4	5.4
	1回	5.8	5.6	10.0	7.2	8.1	4.5	5.2	3.6	4.3	2.5	2.1	2.9
	2回	2.7	2.4	7.4	4.9	3.7	2.4	2.1	1.6	2.0	1.1	0.6	0.6
	3回	5.8	5.1	12.3	5.3	7.4	3.5	4.1	2.8	1.5	2.1	1.7	1.9

7. 外食の状況

3日間の調査期間中における外食の状況は表6のとおりである。

男女とも昼に外食をする者が多く、1回以上外食した者の割合は男62.3%, 女47.2となっている。

表 6 外食状況 (年次別)

(%)

		男				女			
		昭和51年	53 年	55 年	57 年	昭和51年	53 年	55 年	57 年
朝	総	数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	3日間 の外食回数	なし	94.5	93.9	93.9	94.0	97.1	97.1	96.0
		あり	5.5	6.1	6.1	6.0	2.9	2.9	3.1
		1回	3.4	3.5	3.4	3.2	2.1	1.8	1.9
		2回	1.0	1.3	1.3	1.2	0.4	0.5	0.6
昼	総	数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	3日間 の外食回数	なし	43.6	40.9	41.6	37.7	56.7	54.2	54.4
		あり	56.4	59.1	58.4	62.3	43.3	45.8	45.6
		1回	12.1	11.1	11.0	11.2	14.5	15.5	14.7
		2回	12.9	9.9	10.3	11.5	10.4	8.8	9.0
夕	総	数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	3日間 の外食回数	なし	82.1	80.3	78.8	79.3	88.5	87.4	85.9
		あり	17.9	19.7	21.2	20.7	11.5	12.6	14.1
		1回	12.1	13.4	13.6	13.8	8.8	10.0	10.7
		2回	3.2	3.7	4.4	3.6	1.7	1.7	2.0

また、夕食を1回以上外食した者の割合は男20.7%, 女13.5%となっている。

なお、外食の比率の高い昼食の外食内容について、性・年齢階級別にみたものが表7である。

表 7 昼食の外食内容 (性, 年齢階級別)

(%)

		総 数	そば・うどん類	パ ン 類	和 食	洋 食
男	15 ～ 19歳	100.0	28.8	30.1	23.8	17.3
	20 ～ 29歳	100.0	27.5	5.7	42.4	24.4
	30 ～ 39歳	100.0	32.8	3.2	47.2	16.8
	40 ～ 49歳	100.0	35.0	3.1	48.7	13.2
	50 ～ 59歳	100.0	38.7	4.4	44.9	12.0
	60 歳 以 上	100.0	36.2	8.4	49.8	5.6
女	15 ～ 19歳	100.0	19.1	52.9	20.0	8.0
	20 ～ 29歳	100.0	29.5	21.1	34.1	15.3
	30 ～ 39歳	100.0	37.9	11.8	40.5	9.8
	40 ～ 49歳	100.0	40.9	13.1	39.7	6.3
	50 ～ 59歳	100.0	40.1	12.7	40.9	6.3
	60 歳 以 上	100.0	37.6	10.2	49.0	3.2

8. 身 体 状 況

(1) 肥 満

皮下脂肪厚 (上腕背部 + 肩甲骨下部) の測定結果による肥満者 (男40mm 以上, 女50mm 以上) の状況は表8のとおりである。

ここ数年の年次推移をみた場合, 全体的には男女各年齢階級とも年度によって若干の増減をくり返しているものの, 中高年 (40歳代及び50歳代) の女だけは, わずかながら増加の傾向がみられる。

表 8 肥満者の年次推移 (皮下脂肪厚: 男40mm以上, 女50mm以上)

(%)

		15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
男	昭和53年	8.9	13.5	12.6	15.0	14.6
	54年	8.3	11.4	14.9	15.0	15.2
	55年	9.4	11.1	14.4	15.8	13.3
	56年	12.1	12.2	13.1	18.0	16.6
	57年	9.6	12.1	16.3	14.8	15.8
	平均	9.6	12.1	12.7	16.0	14.6
女	昭和53年	10.4	9.9	17.6	22.4	22.9
	54年	8.6	10.3	17.9	24.7	23.8
	55年	10.3	12.4	19.1	24.1	24.8
	56年	8.2	11.5	19.3	27.5	27.4
	57年	10.1	10.4	17.9	27.3	27.7
	平均	7.0	10.0	14.7	22.3	22.4

(2) 血圧の状況

血圧の測定結果を年齢階級別にみたのが表9である。

高血圧者は男女ともに加齢につれて増加し, 40歳代では男17.1%, 女12.4%, 50歳代では男26.2%, 女25.1%, 60歳代では男36.5%, 女33.0%となっている。

表 9 血 圧 の 状 況 (性, 年齢階級別)

(%)

年	齡	総 数(実数,人)	低 血 圧	正 常	境 界 域	高 血 圧
男	15 ～ 19歳	100.0 (437)	0.4	90.4	7.6	1.6
	20 ～ 24	100.0 (251)	—	81.7	14.7	3.6
	25 ～ 29	100.0 (337)	—	83.4	13.6	3.0
	30 ～ 39	100.0 (1,088)	0.1	74.3	17.2	8.4
	40 ～ 49	100.0 (1,057)	—	57.5	25.4	17.1
	50 ～ 59	100.0 (884)	—	45.2	28.6	26.2
	60 ～ 69	100.0 (581)	—	29.1	34.4	36.5
	70 歳 以 上	100.0 (417)	—	24.9	33.6	41.5
女	15 ～ 19歳	100.0 (563)	0.5	95.8	3.2	0.5
	20 ～ 24	100.0 (358)	0.3	96.1	2.5	1.1
	25 ～ 29	100.0 (497)	0.6	94.2	3.8	1.4
	30 ～ 39	100.0 (1,628)	0.3	88.5	8.2	3.0
	40 ～ 49	100.0 (1,478)	0.1	69.8	17.7	12.4
	50 ～ 59	100.0 (1,146)	—	49.0	25.9	25.1
	60 ～ 69	100.0 (860)	—	30.0	37.0	33.0
	70 歳 以 上	100.0 (565)	—	23.9	34.5	41.6

なお、ここでいう高血圧、低血圧などの基準は次のとおりである。

- ① 高血圧は最高血圧160mmHg 以上または最低血圧 95mmHg 以上の者。
- ② 境界域は最高血圧 140~160mmHg 未満の者及び 最低血圧 90~95mmHg 未満の者で高血圧に含まれない者。
- ③ 正常は最高血圧 90~140mmHg 未満でかつ最低血圧が 90mmHg 未満の者。
- ④ 低血圧は最高血圧 90mmHg 未満の者。